

令和6年度 自己評価書・学校関係評価書

令和7年2月28日
真庭市立美川こども園
園長 横山 智江 印



1 美川こども園の教育保育目標

○教育・保育目標

『一人一人の「じょうぶな頭」と「かしこい体」を育み「まあるい笑顔」を輝かそう！』

○めざす子ども像

「どんどん考える子ども」（じょうぶな頭：思考力・表現力・判断力・想像力・粘り強さ）

「いきいき楽しむ子ども」（かしこい体：元気な体・豊かな心・生活の自立・主体性・意欲）

「ぽかぽか温かい子ども」（まあるい笑顔：思いやり・慈しみ・協同・協力・社会性）

2 本年度の重点目標（課題）

本年度の研究テーマ（重点的に取り組むこと）

「豊かな話し言葉を育む環境づくり

～ドキドキ・ワクワク・キラキラの体験を通して夢中になれる幼児をめざして～

○子どもと職員、子ども同士、職員と保護者の信頼関係構築に努め、安心して話したくなる、聞きたくなる気持ちを育む基盤づくりをする。

1 心が動かされ、伝えたくなる、関わりたくなる環境づくりのために

子どもたちが「なんで？」「どうなってるの？」と驚いたり、「すごい！」「おもしろい！」と感動したり、「こうしたらどうなるかな？」と考えたりと心動かしながら関わるができる環境を構成しながら、自ら選んで遊ぶ時間の活動の充実を図る。

2 幼児の内面を理解し、目を輝かせて夢中になれる環境づくりのために

子どもたちの言葉では伝えきれない思いや考えを、行動・表情・仕草などから内面を理解することで、安心して生活や活動ができるよう配慮していく。

3 話したいと思ったときに、話せる職員であるために

子どもが「話したい」と思った機会を大切に受け止め、最後まで丁寧に聴くことで、聴いてもらった満足感や心地よさを十分に感じられるようにする。

4 感性と表現力を豊かにする発達に応じた体験と言葉の獲得のために

生活の中で、心を動かす出来事を経験できるように、季節や行事を取り入れた体験や絵本を聞かせてもらったり、歌を歌ったり手遊びをしたりする機会を日常的にもち、感性を高める実践を重ねる。

5 保護者支援のために

日々一緒に過ごす中での子どものつぶやきを保護者へ伝えながら、子どもの発する言葉のかわいらしさや面白さを伝え、保護者自身も子どもの言葉に耳を傾けたいと思えるように働きかける。また、メディアコントロールに意識しながら基本的生活習慣の大切さを知らせていく。

3 本年度 美川こども園 学校評価（自己・学校関係者）評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
教育課程・ 指導計画	園の教育保育理念、目標を理解して指導計画を立て、記録や振り返りをしながら保育の改善に努めた。	3	3
行 事	年齢ごとの発達段階を考慮した行事のもち方を工夫した。それぞれの年齢のねらいを明確にしながら実施し、園児にとってどんな体験ができるのかを考え、育ちをポイントにして見直しを行っている。	3	4
組織・運営	経営計画をベースに職員一人一人を尊重し、それぞれの得意なことが活かせるように、組織作り・園運営をしている。	3	3
学級経営	一人一人の園児に寄り添い、内面理解をすることを保育の基本としながら温かい人間関係を構築し、自己発揮できる場を作っている。	3	3
特別支援教育	必要に応じて職員を配置して、一人一人の困り感を理解しながら援助や環境作りをしている。丁寧に保護者との話し合いをもち、研修、関係機関との連携も図りながら進めている。	3	3
安全管理・ 保健指導	園内の安全点検を定期的に行い、事故防止の配慮や職員研修を行い安全に過ごせるようにしてきた。避難訓練、交通安全指導も毎月行っている。また、生活習慣、感染症等対策としての情報提供や家族時間を大切にする取組を推奨してきた。	3	4
研修 (資質向上)	園外研修への参加やテーマを設けた園内研修を計画的にしている。園内研修では、外部の講師による自然をいかす保育についても実際の場所に行き研修を行うことができた。	3	4
情報提供・ 保護者・ 地域との連携	保護者と日常的な情報交換に加え、必要に応じて個別面談を行い連携を図っている。日々の見守りや行事への参加、教材の準備などにも協力をいただいたり、住民会等の協力で、花の寄せ植え作りの交流もできた。また、地域の方々の協力のおかげで地域の自然で遊ぶことができた。この経験が子ども達の今後、「美川の良いところ」として伝	3	4

	えることができればいいと思っている。		
小学校との接 続・連携	接続に向けて、小学校の先生方に園に訪問してもらったり、卒業児の様子を小学校に行き見せてもらうことで情報共有をしている。また、園児と1、5年生との交流も行っている。	3	4
子育て支援	お便りや掲示による生活習慣や病気の対応等の情報提供や、保護者も一人一人違うことを意識して、必要な時に安心して相談のできる関係づくりに努めている。家族で過ごす時間の良さを意識していただけるよう「ほっと」タイムカード（2歳児～5歳児対象）、生活リズムカード（1歳児対象）の活用(年3回)をしている。	3	4
食育の推進 (給食)	野菜栽培を通して、育て、調理することや食すことの喜びと、美味しく食べられることへの感謝の気持ちがもてるようにしている。また、栄養士が話をする機会をもったり、毎日の給食を写真掲示し、保護者と子どもが食材や献立を話題にしたり、食事に関心が向くようにしてきている。	4	4
食事の提供 (調理)	衛生管理、体調管理をして、安全に調理できるようにし、調理担当と園児のコミュニケーションを図ることでより給食を楽しみに、感謝して美味しく食べることができるようにしている。また、園で作った野菜を調理してもらい食べることで食に対して興味や関心をもつことが出来た。	4	4
環境美化	美化・整備・清掃を心掛け、季節を感じ気持ちよく、のびのびと活動に取り組める環境づくりを心掛けている。しかし、夏場は園庭の広さ故に草取りが職員だけではきれいにすることは難しかった。今後は保護者や地域の方から草取りボランティアを募って協力をお願いしたい。	3	4

4 その他必要な評価

評価指標	考 察	園総合評価 (自己評価)	評価委員評価 (学校評議員評価)
信頼される職員	園職員として、正しい言葉遣いや態度に気をつけるよう意識し、明るい挨拶と笑顔の対応を心がけている。	4	4

健康な心と体	自身の感染予防に努め、体調に留意し、健康な状態を保つようにしている。また、各自が職員間の良好な人間関係作りに努め、信頼関係を軸に協力することができている。	4	4
--------	---	---	---

5 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

- 職員は園児の姿をありのままに受け入れ、幼児理解を基盤にした、園児一人一人の良さを活かせるクラス運営ができている。園児と職員との信頼関係も深まり、職員も園児の話に耳を傾けることを意識して行っている。生活の中で、思ったことや考えたことなどを伝えようとする姿が多く見られている。3、4、5歳児では遊びや生活の振り返りをする時間が日常的にある。3歳児は先生に自分がしたことを話し聞いてもらえるうれしさを感じている。4歳児は話すだけでなく友達の話聞き自分と同じ思いだったり違う気持ちもあると言うことがわかりつつある。5歳児は話したり聞きあうだけでなく、話し合ったりする機会もあり、話し合って物事を決める経験も重ねている。
- 低年齢児では発語が増え、話したい気持ちがどんどん出てくる時期に思い切り泣いたり覚えた言葉を使ったりする姿を受け入れ、しっかり自己発揮できるように関わり、職員がその言葉に自然と耳を傾け、じっくり聞くこと、温かく話しかけることで、自分から声を出してコミュニケーションを取ろうとする姿が多くなってきている。友達への興味も増え、コミュニケーションを言葉でとろうとする姿へつながってきている。
- 園児が興味をもち、してみたいくなる、挑戦したくなる環境を構成するため、自ら選んだ遊びについて担任を中心に検討会議を設けて環境構成をしてきた。手作りおもちゃや手先を使う遊び、体を動かす遊び、ルールのある遊び等発達段階を考慮して工夫してきた。短い期間での細やかな見直しには課題が残る。
- 終礼等で職員間で共有して、学年を越えて子どもの良さや成長を共有できている。情報共有ができて、担任以外の職員も、登降園時に保護者へ具体的なエピソードなどを交えて成長を伝えることができ園全体で子どもに関わることができているように思う。
- 今年度も、絵本読み聞かせボランティアさんによる読み聞かせ会行ったり、地域の方と寄せ植え作りをしたり外部の方と触れ合うことができた。また、地域の自然（山や斜面）で遊ぶ体験もした。心が動く感動体験をすることができた。これからも地域の方を含め、園外の方の協力をいただきながら様々な人と関わる事のできる直接体験を増やしていきたい。
- コドモン（ICT）を11月中旬から導入した。操作等まだ、不慣れなところもあるが、来年度は、保護者配布文書の一部はコドモンで活用するようにしたい。
- 運動会、発表会、参観させていただき、どの子も目を輝かせて堂々と発表をしている姿を見て、先生方の日頃のご指導の賜物と思います。
- 運動会や生活発表会では、幼児の発達段階や個性に応じて創意工夫されており、子ども達の成長につながる指導や支援が行われていました。
- 一人一人の園児に寄り添って言葉かけもできていたと思います。
- 全体的に良い印象でした。子ども達が好きなことや得意なことを伸ばしていける環境だと感じました。

- 情報提供、地域との連携について、小学校のように園だより等々を一般家庭に回覧板等で知らせてもらえると、園の様子、子ども達の様子も地域の人達に伝わるのではと思います。また、今後計画されます、地域の人の協力による草取り、掃除等々も参加しやすくなるのではと思います。(個人情報の保護のため難しいこととは思いますが)。
- 地域の方が参加する機会が設定されるとともに幼児の関わりが用意されており地域に愛される園づくりに努められていました。
- 環境美化も園に関係のない人たちが園に気楽に来れるような行事参加もあると興味をもたれ、力を貸していただけるのではないかと。

6 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

- 豊かな話し言葉を育む環境づくりをするためには、園児の内面を理解し、園児がドキドキ・ワクワク・キラキラの瞳で体験をすることで、伝えたい気持ちや話したい思いを表現できると考えた。その為には、一人一人の園児の思いに寄り添い、共感し、言葉に耳を傾ける、話を聞くことを大事にしてきた。子どもと保育者が一緒に豊かな体験のできる園生活を作っていける保育を今後も続けた。
- 地域の方への発信の仕方として、園の活動をホームページだけでなく、地域の方に来ていただいて参加する活動や園児が地域に散歩に出かけたりすることで園児の活動の様子等を地域の方にみていただくたり、園での様子を個人情報に配慮したお便りも考えたい。また、地域の方や、小学校と連携して、環境美化や活動などのボランティアの参加も協力していただけるよう働きかけていきたい。
- 子ども達の体験をより豊かにするために、園だけでなく、地域に出かけて美川の自然の美しさや楽しさ、人との関わりができるような活動を来年度も考えたい。
- 子どもも保護者も安心して就学を迎えられるよう小学校との連携も大切にしていきたい。
- 今後も、子ども達が安心してのびのびと自己発揮しながら成長し、その笑顔が輝くように、そして、安心して子どもを預けていただけるように職員一同心を合わせて取り組んでいきたい。